

魅力発信！えひめ農業NOW

平成 30 年 9 月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業振興＞愛媛県農業技術情報サービス

※2 この動向は、9月中に各普及地区から報告のあったものを取りまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

「魅力発信！えひめ農業NOW」（9月分）

四国中央農業指導班

■四国中央地区で「さくらひめ」定植始まる

- （株）JAファームうまでは、デルフィニウム「さくらひめ」を9月18日に5,000株（3a）を定植。
- 11月にも5,000株を定植し、大阪・東京へ販売する予定。
- 当社は花木（ピットスポラム）に続き、県の生産拡大支援事業を活用して初めて花き栽培に取組み始めた。

東予地方局産地戦略推進室

■東予一円 花木の産地づくりを目指して始動

- 産地戦略推進室では管内の農家を対象とした、メラレウカ、ピットスポラム、ビブルナム・ティナスの挿し木講習会を5月と9月に実施。
- メラレウカは現在、約1,300本を育苗中、31年春の定植（約25a）予定。
- JA新居浜市では母樹園（1.5a）の設置準備が9月から始まり、10月に上記3品種を定植予定。



メラレウカの挿し木講習会

■いちご「紅い雫」の栽培面積が増加

- 東予地方局管内のいちご定植が9月1日から始まり、栽培面積は93.7a（昨年比138%）。
- 育苗期間中は猛暑であったが、徹底した管理により充実。
- 光反射シートや栄養診断による高収益モデル園地を設置し、プロジェクトチームによる技術実証を行う。

今治支局地域農業育成室

■里芋「伊予美人」出荷始まる

- 今年の栽培面積は16.4ha（前年比2.7ha増）、出荷予定数量は410t（前年比88t増）の見込み。
- 灌水と病害虫防除を徹底した結果、生育は良好。



荷受けの様子

しまなみ農業指導班

■しまなみ産「夏季レモン」の栽培を検討！

- しまなみ農業指導班は、8月29日「夏季レモン」の生産検討会を開催し、上島町岩城のハウスレモン栽培農家9人が出席した。
- 普及指導員が作成した「夏季レモン」の栽培指針案について説明し、病害虫防除や出荷の方法などを検討。



剪定と夏秋梢処理

今治支局産地戦略推進室

■「紅い雫」「あまおとめ」等の栽培推進

- 管内のいちご生産者（「紅い雫」5人、「あまおとめ」6人）の花芽分化の確認作業を実施したところ、花芽分化開始日は平年並み（「紅い雫」9月10日、「あまおとめ」9月12日）で、出荷開始は11月上旬からの見込み。
- 病害虫の防除等・管理の徹底指導により、苗生産は順調で予定どおり定植が行われた。栽培面積は、「紅い雫」24a、「あまおとめ」44a（昨年比108%）。

■さくらひめの栽培推進

- 管内の花き生産者9戸が、さくらひめの定植を開始。継続出荷を目指すため、定植時期を9月5日、15日、25日にずらして実施。定期的な巡回指導と9月に入ってからからの冷涼な気候により、現在の生育は順調。
- さらに、1戸のさくらひめ生産者圃場で9月上旬から11月上旬にかけて、2週間おきに定植を行い、12月～5月にかけて継続出荷を目指す実証圃も設置。
- 新規生産者は昨年より1戸、面積5a増加し、管内の面積は20aとなった。

■西洋野菜等の産地化推進

- 産地戦略推進室では、管内の西洋野菜等の推進及びその生産者育成のため、生産者と直接意見交換する機会を確保を目的に、6月から月3回「営農相談会」を直販所「さいさいきて屋」で実施中。
- 9月は、5日と25日に直売所の出荷者を対象者に、ロメインレタス等の秋まき野菜の作付推進を目的に、JA担当者と連携して、産地戦略推進室で作成した栽培ごよみと防除指針、土づくりの資料等の提供並びに意見交換を実施。
- この結果、30人程度の生産者が関心を示し、技術相談としては害虫被害（ヨトウムシの防除方法）や苗の入手方法等の質問が多かった。

■「サイクリングしまなみ2018」における今治産農産物のPR活動

- 今治産農産物のイメージや認知度の向上に取り組むため、えひめ愛フード推進機構（ブランド戦略課）と連携して、サイクリングイベント会場（今治市：しまなみアースランド）等において、10月27、28日の両日にPR活動を実施することを実行委員会と調整して決定。
- 具体的には、支局・愛フードブースにおいて、今治産温州みかん、レモン、花木（ビブナム・ティナス、ピットスポラム、メラレウカ）の現物、紹介パネル展示に加え、豪雨災害の被災地域等で収穫された旬の温州みかん果実800kgの配布等を実施する計画で準備中。

■今治産農畜産物のPR、販路拡大の推進

- 9月4、5日に、管内の(株)森のともだち農園他8農林水産物加工業者に訪問して、今後の産地戦略推進室とのPR活動や販路拡大の連携に関する意向等を確認したところ、すべての業者からフェア等の開催情報提供が必要と回答あり。
- この情報に基づき、ブランド戦略課から紹介のあった行事を紹介したところ、
 - ・「がんばろう えひめ マルシェ」（場所：イオンモール今治新都市、日時：10/21、主催：えひめ愛フード推進機構）
⇒3業者参加（(株)いわき物産センター、(有)三皿園、浦安水産）
 - ・「がんばろうえひめ合同産直市」（場所：県美術館前広場、日時：11/24・25、主催：愛媛県）
⇒1グループ参加（ポパイズクラブ）
の4事業者等から参加の意思を確認
- 引き続き、管内事業者のPR活動や販売拡大を支援する。

■今治南高等学校における県GAP取得の推進

- 同校園芸クリエイト科生徒に対する農業生産上のリスク管理（GAPの取組み）等への理解を深めるため、同校農場の施設不知火について、県GAP認証（エコえひめ農産物県認証）を取得したい旨の意向があり、7月から支援。
- 12日に同校担当教諭及び支局（産地戦略推進室、地域農業育成室）で、肥料や農薬、危険か所点検等のリスク評価等の内部監査を実施して取得への問題点等を整理。後日、農薬庫の整理や危険個所の改善方法などについて指導を実施。
- 9月中旬に栽培計画やチェックシート等の整理が完了し、同校が申請手続きを開始。
- 今後、野菜等へも認証を拡大していく意向があり、引き続き支援する予定。

中予地方局地域農業育成室

■「紅い雫」・「あまおとめ」の栽培管理の徹底と今後の取組推進

- 東温市において農業に参入していた「株式会社ジャストワン（人材派遣業）」が、今年度新たに「紅い雫」を約1,000株栽培開始した。
- 地域農業育成室では、炭そ病、萎黄病対策として6月から毎月1回程度の頻度で管内の延222人を巡回し、8月31日に定植苗65万株から罹病株の抜き取り作業が完了したことを確認。
- また、育苗巡回時に育苗管理技術や安全な定植に向けた土壌消毒等の講習を7月と9月に各1回、延138人を対象に実施。
- 21日には、高品質安定生産に向けた栽培技術のレベルアップ等を図るため、JAとの情報交換会を開催した。



炭そ病の罹病株

■愛媛CATVとタッグを組んで中予の農業者と旬の農産物をPR!

- 産業振興課は、(株)愛媛CATVと連携して、中予地域の頑張る農業者や旬の農産物をPRする番組「キラキラ農業！大好きえひめ」を7月から月1本のペースで制作、放送。
- 7日には、第3弾となる中山栗の番組収録を実施。伊予農業指導班の新規採用職員、守屋技師がレポーターとなり、伊予市中山地区の矢野久志さんから、中山栗の歴史や美味しい食べ方、農業に対する熱い想いなどを引き出す。
- 栗の紹介は、9月中旬から1か月間、毎週木曜日に3回放送。CATVでの放送が終わった「伊台のモモ」「久万高原のトマト」は、Youtubeで配信されており、「キラキラ農業 愛媛」で検索、閲覧が可能。
- 今後も久万高原の清流米や伊予のキウイフルーツなどを順次紹介することとしており、民間企業とタッグを組んで農業の魅力をアピールすることとしている。



Youtubeで配信中の動画

伊予農業指導班

■就農希望者と元トマト栽培者の面談設定

- 9月19日、伊予指導班はJAえひめ中央新規就農者修センター研修生と、昨年まで中山地区でトマト栽培を行っていた元生産者の面談会を実施した。
- 当日は、研修生が中山地区でトマト栽培に挑戦したいとの意向により、雨よけハウスの貸し出しが可能である元生産者とマッチングさせ、栽培の意欲や貸し出しの条件等について話し合いを始めるきっかけとした。
- この取組みは、伊予農業指導班が提案し、8月7日にJAトマト部会が研修センター研修生に対し、トマト部会の取組みを紹介するマッチングがきっかけとなり実施することになった。



見学する就農希望者

中予地方局産地戦略推進室

■「さくらひめ」生育順調を受けて、「とうおんしあわせ便」今年も取組み決定！

- 6日から定植が始まった東温市内のさくらひめ（切り花）は、作付面積が29年度2.3aから30年度は6.3aに拡大し、生育も順調。
- これを受けて東温市商工会女性部は14日、昨年取組みを開始した「とうおんしあわせ便」について販売予定数量を大幅に増やして30年度も実施することを決定した。
- 「とうおんしあわせ便」は、さくらひめを使った花かごと花束で、価格は各4,000円で注文販売（予約受付9月下旬～11月末まで）となる。
- 販売数量は、昨年実績の54セットを上回る100セットを予定しており、12月中旬から3月末まで順次発送される。



しあわせ便のチラシ

■なかじま加工試作品4種類を選定

- 12日、中予地方局で第1回なかじま加工品開発検討会を開催。
- ‘ご当地、地元産、新鮮、安心’など好意的な評価が得られた生食用の販促イベント（5月開催）の結果を踏まえて、サーモン以外の材料も中島（怒和島）産にこだわった‘丸ごとご当地’の加工品開発に関心が高まる。
- 地元産の伊予柑（果汁、ピューレ）やタマネギの利用を検討する「干物」、「燻製品」、「パエリアの素」、「ディップ」の加工試作品4種類を選定。
- これらの加工試作品は、地方局予算「なかじまサーモン（仮称）活用地域活性化モデル事業」において製造、試食販売イベント（12月予定）でお披露目して、地元松山の消費者へなかじまサーモン（仮称）をPRする。



加工品開発に向けた協議

南予地方局地域農業育成室

■玉津ブランド復興を誓い総決起大会

- JAえひめ南玉津共選（以下同共選）は5日、隣接の同JA玉津支所2階において復興総決起大会及び出荷協議会を開催。
- 同共選は西日本豪雨の影響がJAえひめ南管内でもっとも多く、数千カ所の土砂崩れがあり、これまでに同共選管内の樹園地400㌔の内70㌔の崩壊や、農業用モノレール1万5675㌔以上の破損を確認したと報告。
- 同地区の温州みかん品質分析では、糖がやや高く減酸が早い傾向で食味は良好な一方、小玉果が多いと説明。園地崩落に加えて農作業の遅れや搬出手段であるモノレールや道路の損壊による搬出不能園の発生等により出荷量は、極早生340㌔（前年比48%減）、全品種合計1,750㌔（38%減）の見込み。
- 同共選は、減収の中で少しでも農家の収入増につなげようと、「諦めない強さは、いつだってみかんが教えてくれた。」との復興スローガンを印刷したみかん販売用段ボール箱を作成し特売をかける。



■被災農業者向け経営体育成支援事業相談窓口を設置

- 宇和島市は9月10日より、西日本豪雨災害に係る被災農業者向け経営体育成支援事業相談窓口を宇和島市吉田公民館に開設した。
- これは豪雨災害からの復旧を目指す被災農業者を支援するために関係機関・団体が連携して実施するもので、10月12日まで実施する。
- 初日の10日は相談に訪れた37人の農業者に対して、事業概要や対象となる農業用施設や機械類、申請に必要な書類等を説明した。
- 26日現在の相談件数は、累計568件。関係機関6～7人体制で対応している。

■種芋に特化した水田さといも産地の育成をめざした出荷検討会

- 9月20日、JAえひめ南さといも選果場（三間町成妙）において、さといも出荷検討会を開催。
- 当日は管内のさといも生産農家15名が参加し、今年から使用されるさといもの根切り機の実演運転を行った。
- 導入する高性能な根切り機は、農家での出荷調整作業が軽減されると農家の期待も高い。



鬼北農業指導班

■伐採林地利用によるくりの大規模経営事例を調査

- 大洲市の大規模くり園（5ha）を訪問し、伐採地の造成方法及び生育状況等を調査。
- 園主は、西予市にも5haの林地を伐採し、自らが園内道、作業道を整備し、計5品種を植栽。排水性の良い傾斜地を選定していること等から、収穫を終了した早生種では、着果量がやや少ないものの、生育は良好。定植5年で成園化する予定。
- 鬼北農業指導班では、この事例をモデルにしてha単位のくりの大規模経営体を育成するため、地元森林組合や主伐山林を所有者している林業者等に栽培パンフを配布するなどしてくりの新植を推進している。



大洲市の大規模くり園



林業者向けくり栽培パンフ

南予地方局産地戦略推進室

■くら寿司に魚の肥料を使った米を提供

- くら寿司の「さかな100%プロジェクト」の一環として、魚の残渣を肥料とした水稻（宇和島市三間町）が収穫期を迎え、6日に収穫。
- 試験水田5.5aにおいて、292kg（10a当たり約530kg）を収穫し、品質も良好。
- 今後は、10月にくら寿司において食味等の審査を行い、くら寿司の店舗やネット販売される予定。



八幡浜支局地域農業育成室

■営農再建に向けて、豪雨被災農家の事業申請を支援

- 八幡浜市と伊方町では、8月に実施した被災者向け農業経営相談会に引き続き、9月3日から14日までの間、補助事業申請窓口を設置。
- 今回も、市町、JAにしようわ、地域農業育成室が協力して窓口対応にあたり、10日間で130件の営農再建関係事業の申請を支援した。
- 樹園地崩落等、大掛かりな農地復旧を要する被災者のほか、樹園地や倉庫への土砂流入やモノレールの埋没等の被災者も多く、土砂撤去のためのバックホー（ユンボ）のレンタルやモノレールの修繕等、関係する補助事業の申請手続きを個々に指導
- 今回の災害では石垣の崩落も多く、石積みの段々畑が西宇和みかん産地の特色でもあることから、関係機関で対応を検討中。



西予農業指導班

■西予生活研究協議会が豪雨災害支援を通じて被災者と交流

- 22日、西予生活研究協議会（会長：山内美智恵）は、西日本豪雨災害支援活動として、地域食材をふんだんに使った「愛情弁当」を200食作り、仮設住宅で避難生活を送られている入居者へ無料配布した。
- 野菜たっぷりの愛情こもった地域食満載の弁当は、「とても美味しく、完食しました。」と好評で、お弁当を介して会員と被災者の会話が弾むなど、交流の場となった。



会員で加工

■加工用キャベツの生産者が環境に優しい栽培のための技術を学ぶ

- 20日、27日にJA東宇和管内の秋植え加工用キャベツ生産者が環境負荷の軽減に配慮した栽培管理について現地圃場等で研修を行った。
- 当日は、JA東宇和と西予農業指導班が室内で栽培講習を行った後、生産者の現地圃場で相互の取組状況や生育状態を確認し、その効果や課題について意見交換、検討を行った。



圃場で相互に生育状況を確認

八幡浜支局産地戦略推進室

■甘平の台湾輸出の進捗状況について

- 県内で初めて愛媛県育成の「甘平」の台湾輸出について取組むことになり、JAにしようわと4月に協議した結果、2戸の施設甘平農家（伊方町・三浦文靖氏、八幡浜市・萩森浩志氏）で取り組むことになり、関係機関（JA、ブランド戦略課）と連携して防除指針（残留農薬基準をクリア）を作成し、それに基づいた栽培指導を現在実施している。
- 9月27日にはブランド戦略課と連携して、甘平の栽培状況と農薬の使用状況について調査し、今後の栽培管理についての指導を行った。
- 平成31年1月25日～27日に実施される台湾での「愛媛フェア」に出品するため、出荷前に残留農薬分析を実施し、合格すれば3kg箱を100箱程度空輸する計画。



輸出用の甘平の栽培状況

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局産業経済部 産業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局産業経済部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局産業経済部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局産業経済部 産業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局産業経済部 産業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局産業経済部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543